



育成を目指す資質・能力 知識及び技能

自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

自然災害から地域の安全を守るための諸活動の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。

学びに向かう力、人間性等

自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

単元の目標

- 地震から人々を守る活動について、過去に県で発生した地震災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり資料で調べたりして、関係機関や人々は地震災害に対し様々な協力を対処してきたことや、今後想定される自然災害に対して様々な備えをしていることを理解できるようにする。
- 過去に高知県で発生した地震、関係機関の協力などに着目して、地震から人々の命や生活を守る働きの大切さを考えたり、自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現できるようにする。
- 学習したことをもとに、地域の安全確保について自分たちにできることを考え協力しようとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

単元を貫く問い 地震災害から人々の命や暮らしを守るために、だれが、どのような取り組みをしているのだろう。

7/22 教材研究会

協議の柱

- ①単元を貫く問いは、単元ゴールで資質・能力が身に付いた子どもの姿に迫るものとなっているか。
- ②単元を貫く問いと各時間の問いの整合性はとれているか。

葉山小 社会科の研究の柱

拠点校の葉山小学校では、授業づくり講座2年目の取組として、「単元構成(単元を貫く問い)」と、「問い(小さな問い)」について研究を進めています。

○単元構成

単元ゴールで身に付けさせたい資質・能力を踏まえて、単元を貫く問いを設定し、単元の学習が終了した時点で、児童にそれらの資質・能力が身に付いているかを、児童の言動や振り返り等を通して見取る。

○問い

1単位時間ごとの学習課題となる小さな問いを、児童自ら出せるように資料提示を工夫し、児童が主体的に学ぶ姿を育てながら、単元を貫く問いと、1時間ごとの問いの整合性を図る。

研究協議

研究協議の様子



資料提示の仕方が児童の興味関心を引き出すものとなっている。

学校や地域の防災を思い出させることで学習を身近に捉えられる。

気付きや疑問を1つずつ短冊に書き、分類する。①学校②地域③高知市④高知県など、キーワードを示し広がり意識する。

今後どのように授業を構成していくのか?

気付きや疑問がたくさんある中で小さい問いはどうしていきか?

【模擬授業の様子から】

☆模擬授業の流れ

- ①高知県で起きた昭和の南海地震の写真から気づきや疑問を出し合う。
- ②歴史年表を提示し、地震が起きた時に気付きや疑問を出し合う。
- ③身近な場所にある施設・設備に気づかせる。
- ④備えについて知りたいこと・調べたいことをもとに⑤単元を貫く問いをつくる。

☆参加者からの意見

- ・資料写真として用いた白黒写真は、児童にとって分かりにくいのではないかな?
- ・地震よりも戦争を想起する児童もいるのでは?
- ・学習課題が具体的でない。
- ・課題とまとめの整合性はとれているか?
- ・意見を出しつづけないような工夫をすると良い。

☆改善策

- ①資料写真を阪神淡路大震災のものに変更
- ②一人一人の意見を短冊に書くようにし、児童同士で分類するように改善
- ③「だれが」「どのような取組」という視点に焦点化する。

【単元を通して資質・能力を育成する】教材研究では、学習指導要領解説を基に、本単元で目指す資質・能力を明確にすることが大切です。その資質・能力を育成するために、社会科の特質である社会的現象の見方・考え方を活用する単元構成を組み立てていきます。併せて、本単元では、総合的な学習の時間の取組との違いについても明確にしておく必要があります。(参考:小学校社会科教材研究のステップ)

【働者アンケートより】授業全体を見通して、単元のゴールを子どもの姿としてイメージしていくことが大切であると感じました。また、学習課題を作る時の注意点など自分自身の授業で実践してみたいことがあったので実践してみたい。

9/30 授業研究会

協議の柱

- ①単元を貫く問いは、単元ゴールで資質・能力が身に付いた子どもの姿に迫るものとなっているか。
- ②単元を貫く問いと各時間の問いの整合性はとれているか。

教材研究会からの改善点

- ①教材写真の興味→「だれが」「どのような取組」をしているのか注目できる資料(阪神淡路大震災、東日本大震災)
- ②意見の集約方法→一人一人に短冊に書かせ、児童同士で分類する
- ③学習課題→「だれが」「どのような取組」という視点に焦点化

本時の流れ

1. 資料写真についての気づきや疑問を出し合う。
2. 地震の歴史年表を見て、気づきや疑問を出し合う。
3. 本時の問いを確認する。  
「地震災害から人々の命や暮らしを守るためには、どのように学習を進めればよいかな?」
4. 地震が起きた時に気付きや疑問を出し合う。
5. 出てきた意見を分類する。  
単元を貫く問い  
【地震災害から人々の暮らしを守るために、だれが、どのような取組をしているのだろう?】
6. 気付きや疑問を解決するための方法を考える。
7. まとめ

研究協議

事前に写真を子どもたちが考えやすいものを選んでいたので、気付いたことから課題への展開がスムーズだった。

①単元を貫く問いは、単元ゴールで資質・能力が身に付いた子どもの姿に迫るものとなっているか。

②単元を貫く問いと各時間の問いの整合性はとれているか。

単元の課題で、見直しをもって、だれがどのように調べていくかを黒板に書いていることで何をしていたかが明確になった。

単元の問いに対する予想を出すことができていない。また、選抜後のことについて補足が必要では?

振り返りでは、視点を示して書かせることで子ども一人一人の学びが見取ることができる。

PR動画(ゴール)で「どこの」「だれに」「何のために」を明確化する。(津野町、家族とか)

【研究授業の様子から】

◇本時(単元の導入(1/10時間目))は、単元を貫く問いと学習計画を立てる時間

- ☆資料写真(社会的現象)を通して、地震が起きた時に気付きや疑問を考える場面
  - ①自分ごととして考え始め、気付きや疑問「どうしたらいいのだろう?」という問いが生まれる。
  - ②この問いが、単元を貫く問いとなり、毎時間の問いの基となる。この場面を丁寧に扱うことで、子どもたちは見直しをもって学習を進めることができる。
  - ③子どもたちが毎時間の振り返りの際にも、単元を貫く問いに立ち返りながら学習を進めることで、問いに対して深く追究し、また、学び方を自己調整することができる。このように、子どもたちの思考を繋げながら、問いを導き出し、問題解決していくためには、学習の在り方(単元づくり)つまり、単元デザインが重要である。
- 目指す資質・能力を身に付けることができる授業にするために、欠かすことができない教材研究の過程として、「小学校社会科教材研究のステップ」(中部HP)を活用して単元をデザインしていきましょう。

【見直しをもって学習を進めるとき】見直しをもたせるには、単元を貫く問い/毎時間の問いについて、予想を立てることが大切である。①問いに対する予想を立てる②問題解決のためには、何を調べるとよいか考える③調べる④調べた結果をもとに予想と比較する⑤まとめる。このような学習過程が必ず生まれてくるよう、子どもたちの思考をつなげながら学習を進めていく問題解決的な学習を心掛けたい。

【働者アンケートより】単元を貫く問いはとても大事ですが、一番難しいところだと思いました。本日の授業では、資料の活用があり、そこから問いにつながるキーワードが子どもたちから出て…上手くつなげていたなと思いました。所属校でも生かしていきたいです。